

令和7年度椎葉小学校 第1回学校運営協議会(6/25)

日程説明の後に授業参観を行いました。
その後、委員10名の皆さんへ委嘱状授与を行って、学校経営ビジョンの説明と承認・昨年度までのふりかえりをしました。

(説明・協議の様子)



今年度の学校経営方針について、校長が説明しました。

◇ 学校目標の具現化に向けた経営ビジョンと各取組について

◇ チャレンジすることの意義
チャレンジしての失敗は、失敗ではない、学べば良い

◇ 簡単なこと1つでもいいから、徹底する
→ チャレンジは気付きから

委員の皆様から、全会一致で承認を得ました。



(授業参観の様子)



今年度は、「チャレンジ」をテーマに協議を進めることを確認し、始めました。

- ◆ 今日の授業、またはこれまでの児童の姿から、チャレンジしている姿は見られましたか？
- ◆ 子どもがチャレンジするには、何が必要だと思われますか？また、チャレンジできないのは何が原因だと思いますか？

今日の授業(3・4年の椎葉村学「方言」)の様子を見ていると、子どもたちは地域の方に対して、果敢に質問したりやりとりしたりして理解しようとしていた。チャレンジしていたと思います。

今日の1時間目文化伝承「ひえつき節」で指導にあたったが、元気があり良かった。上学年が下学年に教える姿もあった。
私の孫が料理に興味をもっている。手伝いで大根すりをやった際ケガをした。しかし、大きなケガでなければ、その痛みを知ることは大切なのではないかなと思う。
また、「・・・しなさい」ではなく、「子どものやりたい」を生み出す必要性を感じる。

自信のある子だけでなく、不安を抱えている子もいる。その時の「後押し」を先生方にはお願いしたい。頭ごなしに言うのではなく、考えさせるということの大切さがある。

私が子育て真っ最中の時に考えていたのは、選択肢を準備はするが、子ども自らがチャレンジさせることを心がけていた。

親(大人)が子どもに何かを勧める(させてしまう)ことで、失敗する経験を奪ってしまう。いろんな経験を子ども自らがすることが大切だと思います。

例えば、学校で決まっている学校行事等で子どもに「何がしたいか」を問う・聞く事があっても良いのではないかな。自主性を育むことがチャレンジができるのではと思う。



今年度1回目も、熟議化していきました。

令和7年度椎葉小学校 第1回学校運営協議会(6/25)

- ◆ 今日の授業、またはこれまでの児童の姿から、チャレンジしている姿は見られましたか？
- ◆ 子どもがチャレンジするには、何が必要だと思われますか？また、チャレンジできないのは何が原因だと思いますか？

リモートでのユニット学習を参観したが、本当に子どもが分かっているのかと感ずることがあった。子どもが間違ってしまった理解のまま授業が進んではいないか、分からないと言えずにいる子どもはいないのかという視点も大切です。

できない子ども(人)が取り残されないようにすることが大切だと考えている。

(6年社会のユニット学習では)先生はレベルの高い授業であったし、子どもたちも学習に取り組んでいた。また、特別支援学級でも先生方・支援員の方とが、一緒になって本時の授業を進めていた。これは、事前に先生が準備をきちんとされているからだろうし、先生方に「気付き」があるのだろうと考える。

中学校入学までに、子どもたちが自信をもてるような授業を続けてほしい。

また、別視点で「ミスとファインプレーは紙一重」ということに、子どもたちも先生方にも気付いてもらえるとありがたい。

学校やスポーツ少年団での子どもたちの様子を見ると、前に出る子は増えていると感じています。先生方の声かけ・支援によって、子どもたちはチャレンジしやすい環境になっています。チャレンジには「見えるチャレンジ」「見えないチャレンジ」があり、後者は、新しい環境に慣れたり新しい役割に取り組んだりすることと考える。そういう形でのチャレンジも評価されるとよい。



一言で言えば「何も心配なくいい」「(大人・教師が)要らんことを言わんでも大丈夫」。子どもは大人のように忖度はしないですよ。

子どものチャレンジには、内発的な動機付けが重要です。大人自身が自分を制して「何も言わない」ことが、子どもの自主性につながっていく。そして、大人は褒める・・・褒めちぎるくらいでもいい。逆に、年齢を重ねるとできていたこともできなくなり、固まった考えしか生み出せなくなる。



徐々に、チャレンジの核心に迫ります。

「やる」と「できる」は、違う。
そして子どもが「やれる」ことをしないならば、大人が子どもに指摘しなければいけないと思う。

そもそも、子どもに「チャレンジする」という概念があるのだろうか。そして、子どもだけではチャレンジはできない。相手がいたり、取り組んだ結果での失敗だったり、必要な要素がいろいろある。失敗をしても「やる気」を出させる先生方であってほしい。

子どもたちには、「嫌なもの・苦手なもの」があったならば、他の分野でチャレンジさせる手立ても講じてもらいたい。そのためには、一つ一つ丁寧に関わることも大切です。

【まとめ】

- (1) 今年度のテーマである「チャレンジ」をベースにして、「地域と共にある学校」と「学校が核となった地域づくり」に、椎葉小学校は取り組んでいく。
- (2) 「チャレンジ」のためには、以下の考え方が大切にしながら学校経営ビジョン教育活動が理想である
 - ① 「しなさい」ではなく「やりたい」
 - ② チャレンジへの賞賛は必須
 - ③ 大人は、選択肢を子どもに提示することが大人の役目

熟議の最後に田爪校長が謝辞を述べた。その後PTA会長より、昨年度来における本運営協議会への感謝及び150周年記念事業における進捗の報告等があり終了した。次回第2回学校運営協議会は、令和7年10月15日(水)です。ありがとうございました。